



20年経って、あらためて思う。

本屋は、気になるもので
できている。

私にとって書店は大きな情報源だ。

雑誌の表紙を見て最近こういう顔の男子が人気なのかと知り、

ポップで今この作家さんがおもしろいんだと知る。

自分が読む本から子どもの絵本まで、ポップを参考に買うことがほとんどだ。

そして、最近では、今まで以上にポップが気になっている。

本屋大賞をいただいて、どれだけ書店員さんが本に思い入れがあり、

工夫して伝えようとしているのを感じ知ることができた。

自分の本にポップをつけて下さっていると、この書店員さんと語り合いたいとうれくなり、

ひっそり置かれていると、この本だめでした? と(はんぼり)聞きにいきたくなる。

もちろん、仕事の邪魔になるから、たまにしか実行しないけど。読者としても

作家としても、本屋はいろいろ気になる存在だ。

瀬尾 まいこ

2019年大賞「そして、バトンは渡された」

全国の書店員が選んだいちばん売りたい本 本屋大賞 20th 開催中!



手帳ブランド NOLTY[ノルティ]は本屋大賞を応援しています。 NOLTY®
SINCE 1949